



除雪機械等操作講習会のような

**答** 各地区センターに1台ずつ計9台を配置したが、配置時期が1月末と遅れたこともあり利用は計45回ほどで少なめになっている。その原因は、活用方法の工夫等についてのPR不足と認識しており、今後詳細内容を検証のうえ改善策を講じるようにする。

**問** 地区センターから離れた地域に住んでいる生活弱者の除雪は市民協働による取り組みが必要なのでは

**答** 地区センター配置の除雪機は、運搬が煩わしくて使にくいという地域には、除雪機械購入に対し100%補助対応の「地域支え合い体制事業」が新たに設けられたので活用してほしい。

**青年就農給付金制度の利活用とそのPRは**

**問** 耕作放棄地を解消するための受け皿をどのように構築するのか。

**答** 現状で15haあり、再生協議会で協議を重ね解消していきたい。

**問** タフビジョンの10億円達成アクションプランの具体的中身が見えない。作目別の生産販売額も示されていないが。

**答** 地域別生産額は公表していない。数値的なものも個々の分について把握していない状況であるが、今後JAの販売額をもとに地域座談会などの開催の中でしめていきたい。

**問** 目標を示し、生産意欲が湧く数値を示すべきでは

**答** アスト立ち上げの時点に帰り、体制を整備し取り組みたい。

**問** 複合経営が主体の農家の経営分析指導も必要と考えるし、耕作放棄地を開放すべきと言う声もあり危機感を感じるが。

**答** 農地、非農地の区分けも難しい部分があり、部門別の経営状況の把握と目標値設定も必要と考える。耕作放棄地解消と解消後の有効活用は大きな課題である。

**問** 日本一のホップ生産栽培において、不足が生じ増産が求められていると聞く。特産物への指導を強化すべきと考えるが。

**答** ホップは、遠野に適した作目で増産が可能であれば、積極的に取り組みたいです。

**問** ホップ栽培は高所での作業もあり、高齢化の進展に伴い収穫の共同作業にも課題があり、減反する農家もあるのではそうした圃場に青年就農給付金制度をPRしグループで取組み、ひとつの圃場に先生と生徒が存

在し生産にあたることも可能と考えるが。

**答** 青年就農給付金制度が今年度からスタートし、七経営体が受給している。ホップ栽培のグループができ、先生と生徒という形でこの制度がうまく伝わっていく状況が作れば良いなという思いである。提言にあったことを含めて、検討させていただきたい。



遠野市と花巻市の両市をまたぐ市道長崎線

**市道長崎線の道路管理負担金の内容は**

**問** 道路除排雪業務における市道長崎線の道路管理負担金の内容は

**答** 宮守町に遠野市と花巻市の境に長崎川という川があり、川を挟んで両市が交互に入り組んでいる長崎地

区は、これまで冬季の除雪は月ごとに交替でやってきた。地域への安定した除雪対応のため花巻市と協議をし、今シーズンから花巻市でやってもらうという協定を結んだが、そのための予算である。

**問** それは地元自治会や住民からの要望か。市の判断か。住民への周知は

**答** 個々の住民からの要望ではないが、これまでの経緯で遠野市や花巻市双方に連絡しなければならぬなど都合があり、区別をしないで一貫的にやった方が効率的であり、総合支所や区長を通じて話をしている。

**問** 今後は年ごとの交替になるのか。このまま花巻市に委託する方法か。

**答** 長期の分の詳細についてはこれから詰めるが、基本的には花巻市にお願いし、より良い除雪体制を築いていきたい。